

平成17年度 事務事業評価表					
〔様式1〕					
記入年月日	平成17年4月25日		記入者	内線	2153
部 名	企画部	課 名	文化国際課	課長名	江成朱美
事務事業名	文化行政推進事業（フォトシティさがみはら）				
予算上の事務事業名	文化行政推進事業				
1 総合計画における位置づけ	施策コード		35130		
基本目標	「躍動し 魅力あふれる交流拠点都市」をめざして				
政 策 名	第5章 輝き魅力あるまちづくりを進めます				
基本施策名	第1節 輝き魅力ある都市の創造				事業開始年度
施 策 名	第3施策 都市文化の創造と情報発信				平成13年度 ▼
2 実施根拠及び関連法令・条例等					
3 個別計画の概要					
計画名	さがみはら文化振興プラン		市民文化の創造や文化的視点にたったまちづくりを推進していくための文化振興の目標や方針、基本的な施策などを明らかにすることを目的に策定		
計画年次	平成6	年度～	年度		
4 事業形態の区分 啓発・広報・イベント ▼					
5 事業概要					
(1) 事業の目的（何のために行うのかまたはもたらしたい成果）			(2) 対象（誰、何）		
広い地盤を持つ写真文化にスポットをあて、写真展を中心に様々なイベントを組み込んだ市民参加の文化事業として、総合写真祭「フォトシティさがみはら」を開催する。この写真祭は、全国規模の質の高い写真祭として開催することで、新しいさがみはら文化を全国に発信する事業として位置付けるとともに、市民が優れた芸術文化に触れたり、それぞれの場で参加できる市民主体の事業として位置付ける。			全国のプロ写真家・アマの写真愛好家、市民		
(3) 平成16年度事業の内容（活動）・・・いつ、どのような方法で実施した内容（活動）なのか。					
実行委員会への事業補助 19,500,000円 写真展 プロの部・アマチュアの部入賞入選作品の展示（プロの部 写真賞1・アジア賞1・新人奨励賞2、アマチュアの部 金賞1・銀賞2・銅賞3） 来場者2,656人 フォトドキュマン プロの写真作家による映像作品の上映 来場者201人 フォトシンポジウム 写真をテーマにした著名人によるパネルディスカッション 来場者230人 写真講評会 アマチュアの部審査員の解説による入賞入選作品の講評 来場者73人 フォトスライドショーオブスチューデントズ 学生による音と映像のスライドショー 来場者403人 子ども写真教室 市内小学校での児童が写真に親しむ講習の実施 参加児童 約500人 私のこの1枚 公募で寄せられた「とっておきの1枚」の展示 展示点数 324点 他					
6 関連・類似事業や他市の状況					
北海道東川町で実施されている「東川町国際写真フェスティバル」 比較すると、本市は都心に近い利点を生かした新しい写真祭となっているといえる。					
7 事業費の推移 [単位：千円]					
年 度	平成14年度(決算)	平成15年度(決算)	平成16年度(決算見込)	平成17年度(予算)	平成18年度(見込)
事業費	19,980	17,640	19,500	17,900	17,900
一般財源	19,980	17,640	19,500	17,900	17,900
受益者負担金	0	0	0	0	0
その他の特定財源	0	0	0	0	0
人件費の合計	11,746	11,214	11,298	11,298	11,298
事業コスト合計(a)	31,726	28,854	30,798	29,198	29,198
8 事業効率・・・（複数の事業で構成されている場合は、その中の主たる事業）					
主たる事業名	文化行政推進事業（フォトシティさがみはら）			対象名称 (単位)	写真展来場者数
年 度	平成14年度(決算)	平成15年度(決算)	平成16年度(決算見込)	平成17年度(予算)	平成18年度(見込)
事業コスト(主たる事業)	31,726	28,854	30,798	29,198	29,198
対象数	3,090	3,124	2,656	3,000	3,000
単位あたり経費(円)	10,267	9,236	11,596	9,733	9,733
前年度比		0.90	1.26	0.84	1.00

9 活動指標・・・実施した内容（活動）の数値化					
指標名 (単位)	さがみはら文化の市外への発信達成率	指標式と指標の説明		掲載された雑誌数/主な関係雑誌数(×100) 雑誌に掲載された数量により、市外への情報発信の達成率を表す。	
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度(目標)
実績	100.0	100.0	100.0		
目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
目標達成度	1.00	1.00	1.00		
10 成果指標・・・対象と意図の達成度を表す指標					
指標名 (単位)	市民への写真文化の広がり達成率	指標式と指標の説明		「わたしのこの1枚」参加点数/参加予定件数(×100) 市民参加イベントへの参加実績を指標に、広がり達成率を表す。	
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度(目標)
実績	105.4	94.5	87.5		
目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
目標達成度	105.4	94.5	87.5		
11 個別評価					
(1) 妥当性の評価 【A：妥当である・B：妥当性に課題がある・C：妥当でない】					
B	<input type="checkbox"/>	法令等により実施することが義務付けられている。			
	<input type="checkbox"/>	法令等に定められた市の責務を具体化して実施する事業である。			
	<input type="checkbox"/>	公益性が高い、または必需性が高い事業である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	将来にわたって、市民のニーズや行政需要がある。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	税金を投入して実施するにふさわしい事業であり、市民にも説明できる。			
(2) 有効性の評価 【A：有効である・B：有効性を高める余地がある・C：有効でない】					
B	<input checked="" type="checkbox"/>	上位施策の目的を達成するために大きく貢献している。			
	<input type="checkbox"/>	課題等の解決や市民生活に大きく貢献している。			
	<input type="checkbox"/>	成果指標の実績値とその推移から見て、期待されるような成果をもたらしている。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業の対象範囲は適切であり、対象は事業を実施したことによる効果を楽しんでいる。			
(3) 効率性の評価 【効率が良い・B：効率性を高める余地がある・C：効率が悪い】					
B	<input type="checkbox"/>	単位あたりの経費は適正である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	これ以上コスト節減の余地がない。			
	<input type="checkbox"/>	受益者負担や補助等の割合に問題はない。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業の実施方法や実施体制は適正である。			
(4) 民間活力の導入の可能性 【有・無】					
	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方が経費の節減に繋がる。			
	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方が技術・知識面で優れている。			
	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方がサービス面で優れている。			
	<input type="checkbox"/>	民間では実施していない、または市が実施する方が優れている。			
12 総合評価					
(1) 自動判定結果					
	[]	良好な状態を維持する事業			
	[]	概ね良好な状況である事業			
	[]	見直しを行う必要がある事業			
	[]	抜本的な見直し、休止、廃止を検討すべき事業			
(2) 担当課の課長による評価(今後の方向性)			(3) 課長の評価に関する説明		
現状維持	<input type="checkbox"/>	拡充・充実		写真文化の向上としては、かなりの認知度を得ているものの、市民層への広がりについて今後工夫が必要と考える。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状維持			
	<input type="checkbox"/>	見直し			
	<input type="checkbox"/>	廃止			
13 成果の向上及び効率性を高めるための方策			14 課題として認識されたこと		
写真展プロの部受賞者がその後名高い写真賞を受賞するなど、回を追うごとに実績を積み重ねている事業といえる。今後も写真展としての現在の規模を保ちつつ、より市民に文化に触れる契機として絶好の場であることをアピールするパブリシティを充実させていく。			平成14年度より「子ども写真教室」を実施し、次世代の文化の担い手となる子ども達へ目を向けた事業を展開している。本市への愛着と誇りを育てることができるよう様々なイベントを若い世代を対象に仕掛けていくことが今後も求められる。		
15 二次評価					
(1) 行政評価会議による評価(今後の方向性)			(2) 二次評価コメント		
現状維持	<input type="checkbox"/>	拡充・充実			
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状維持			
	<input type="checkbox"/>	見直し			
	<input type="checkbox"/>	廃止			